

*活動報告書

報告者氏名：村上光輝

所属：福島県立石川養護学校 記録日：2013年2月27日

【対象児の情報】

・学年 中学部2年 男子 14歳

・障害名 知的障がい

・障害と困難の内容

対象生徒は知的障がいを伴う自閉症と診断されている。パソコンの操作やタブレット端末の操作を3回程度で覚えることができる。初めて体験することは写真での提示が有効であり、経験を重ねた内容は文字による提示でも理解できる。しかし、運動や作業などの動作を伴う活動を理解するためには、1ヶ月程度、見たり体験したりする期間が必要である。

【活動目的】

・当初のねらい

興味をもって取り組むことができるタブレット端末を活用し、保健体育や作業学習において、スケジュール提示として活用すること、動画による活動内容や状況の説明を取り入れることは、学習に効果的であると思い、生徒が主体的に生活できることをねらい、興味をもって取り組んでいる国語や数学においてiPadの活用を更に生かし、動作を伴う作業学習や保健体育での活用へと発展させていくことを目標に取り組む。iPadそれぞれの授業での生徒の活用の過程を複数の教師で検証していくことで、生徒の将来の社会生活を見据え、の活用の在り方を探ることができるようにした。

・実施期間

作業学習：6月～

保健体育（バスケットボール）：1月～

・実施者と対象生徒の関係

村上 光輝：国語・数学、家庭学習担当

大河原聡子：作業学習、保健体育担当

山内 淳：学級担任

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

パソコンやタブレット端末の特定のアプリが好きで、問題に対して答えの正解、不正解にかかわらず、○や×、また効果音を楽しみに取り組んでいることが多いため、教材の活用が学習の目的に沿わないことが多い。

作業学習では、和紙を切る、1か所を折るなど、手順が分かりやすい工程の作業以外はパニックになることが多く、保健体育のバスケットボールでは、正規ルールの高さのゴールと低いゴールを準備したところ、確実にゴールできる低いゴールにシュートする様子が見られた

・活動の具体的内容

- (1) 6月に実施した1週間の校内実習において、「写真」のアプリを使って作業学習に取り組んだ。ポチ袋折りの工程について、教師の見本をビデオで撮影し「写真」に取り込むことで動画を見て手順を覚えることができるようにした。動画の操作方法は、教師がiPadで動画を見ながらポチ袋を折る様子を見せる支援をした。



図1 ポチ袋折りのための動画

- (2) 作業学習同様に「写真」のアプリを使い動画を見るとともに、「YouTube」を併用して、1月から毎週2回の保健体育の授業におけるバスケットボールに取り組んだ。動画を見てシュートやパスを覚えることができることをねらいとした。より実践的な動画を提示するために「YouTube」でプロバスケットボールの動画を見ることから始め、授業の内容に合わせてその場でmpeg4でのビデオ撮影をして取り込むことで対象生徒に必要な情報を動画で伝えることができるようにした。

動画を見る時間は、試合と試合の間の休憩時間とした。

※すべての活動において対象生徒の要求があった時に教師が必要な支援をするようにして、教師の言葉かけをできるだけ少なくするように配慮した。

・対象生徒の事後の変化

- (1) 手順が分からないところを再生中の動画から探し、確認して作業に取り組んだことで、1日で手順を覚え取り組むことができた。1週間の校内実習以降はiPadがなくても正確にポチ袋を折ることができた。
- (2) 正規の高さのゴールに、教師が教えていないワンハンドシュートを使ってシュートができるようになった。自分から判断してパスをすることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- (1) 作業学習における取り組みについて、「写真」のアプリを使って動画を見るときに、動画の中に音が入ったり、文字を入れたり、動画を見ながら教師が言葉掛けをしたりすると、その言葉や文字を繰り返し話す様子が見られ、音声を無くし映像のみを再生した。必要な情報を自分のタイミングで、必要な時に再生して確認する様子が見られ、iPadで活動内容を提示するというよりは、生徒がiPadを活用している様子であった。



図2 ポチ袋折りを動画で確認している様子

(2) 保健体育のバスケットボールについて、動画から、ゴールに向かう角度、シュートのフォームを理解し実践する様子が見られた。パスの動画を提示した時には試合中に自分で判断してパスをすることが多く見られ、見た動画のとおり試合に参加する様子であった。そのため、教師が授業で獲得してほしい技術の動画を撮り、複数の動画を準備したところ、自分が試合で発揮したい技術を動画で見てから試合に参加する様子から、他の題材と比べて意欲的であった。



図3 休憩時間に動画でシュートフォームを確認する様子

・エビデンス（具体的数値など）

(1) 作業学習：ポチ袋折り、60分間の完成個数。

日付	6月21日	6月22日	6月23日	6月以降平均
完成個数	動画を見て覚える。	20	30	55.5

(2) 保健体育：バスケットボールで見た動画と使用アプリ及び授業の様子。

日付	1月14日・23日	1月28日～30日	2月4日・6日	2月11日以降
アプリ	YouTube	YouTube	YouTube 写真	YouTube 写真
内容	NBA シュート (右側) シュート練習	NBA パス	NBA のシュート(右) 教師のドリブル 教師のシュート	NBA の試合 教師のドリブル 教師のシュート
試合の様子	ワンハンドシュート で得点する。	シュートはせず、パ スのみで参加する。	・シュートをする回 数が増える。 ・動画を自分で選択 して見ていた。	初めて左方向から シュートをするこ とができた。

・その他エピソード（画像などを含めて）

作業学習において動画の提示を生徒の認知面と合わせて検証したことで、映像のみの提示が有効であることが分かり、保健体育では生徒の主体的な活動や技術の向上を引き出すことができた。しかし、バスケットボールの試合において、パスをしてほしいと思い、パスの動画を提示したところ、試合において相手チームにもパスをする様子があり、チームの区別がついていないことが分かった。味方にパスをするという内容を言葉で伝えても理解できない様子であり、その後の授業ではゴール下に動いて、パスされたボールをシュートする状況から進んでいない。今後の取り組みとして、授業と同じ体育館で、対戦するチームのビブスの色を同じにするなどの配慮をすることで、自分からボールに向かって試合に参加することができるようになるのではと考えている。

図4 提示したシュート練習の動画

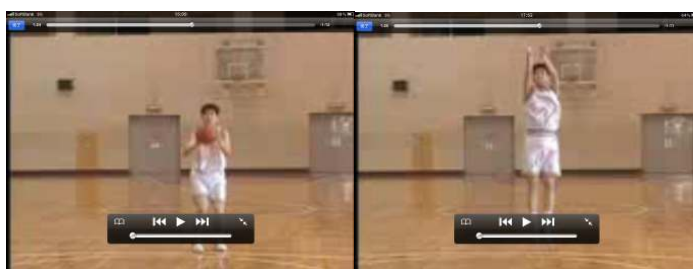


図5 シュートの様子（2月20日撮影）

